

2026年6月25日

2026年3月期取締役会の実効性評価結果の概要

ドリームベッド株式会社
取締役会

1. 取締役会実効性評価の目的

当社は、企業経営を継続していく上で、コーポレート・ガバナンスの充実が重要であると認識しており、企業理念（基本理念及び経営方針）を実践して企業価値を高めるとともに、健全な経営管理体制の下で、適時・適正な情報開示により、企業経営の透明性を確保することによって、コンプライアンス経営を積極的に推進してまいります。

このような基本的な考えの下、取締役会の現状を正しく認識のうえ評価することで、取締役会の機能向上を図ることを目的とするものです。

2. 評価方法

取締役及び監査役合計9名全員へ次の内容にて記名式アンケートを実施し、自由コメント欄を設けて、2026年3月期の1年間を評価対象期間として、取締役会に対してそれぞれ評価意見を聴取しました。

■アンケート内容

- ・取締役会の運営について
- ・取締役会の監督について
- ・取締役会事務局の対応について

25問+自由記入欄3問で実施。

3. 評価結果

当社の取締役会は、その果たすべき実効性を十分に発揮していると評価します。

- ・決議事項に対して、出席取締役及び監査役において疑問点を残すことなく納得いくまで議論を重ねており、最終取締役において合理的判断がなされ、ガバナンス上その判断の公正性を監査役において監視できている。
- ・報告事項における社内各担当取締役からの報告に対して、社外取締役及び社外監査役より質問、助言を受ける形で、出席取締役及び監査役による自由闊達な議論がなされることで、取締役会として社内各担当取締役の業務監督に寄与している。

4. 課題(2026年3月期課題の対応状況)

当社取締役会は、2026年3月期の1年間を評価対象期間とした、前期アンケートから課題として捉えた次の項目に対して、それぞれ対応いたしました。

課題	対応案	対応結果
経営戦略に基づいた組織、人事戦略について、さらに議論を深める。	広島県人的資本経営研究会や人事組織委員会を通じて議論した内容、さらに人事制度の見直しについて、今期は定期取締役会、または意見交換会にて、今後当社が対応すべき人事組織戦略に関して協議し、それを社内業務に落とし込んで進捗を監督する。	広島県人的資本経営研究会での取組みが当初予定に対しては若干不足したことから、取締役会における議論も、各役員アンケートにて指摘されたとおりであるため、改めて2027年3月期に取り組むもの。
当社の将来ビジョンやあるべき姿について、さらに議論を深める。	来期から始まる次期中期経営計画策定において、中期経営計画検討委員会を立上げ、そこで議論した内容を定期取締役会、または意見交換会にて協議し出された意見を、同委員会の検討に反映し、その進捗を監督する。	取締役会において議長より策定の進捗を報告し、そこで為された協議や意見を反映しながら、2026年5月14日に、新中期経営計画「Creating Value for Dreams」を対外的に発表した。

5. 課題(2027年3月期)

当社の取締役会は、上記2. 評価方法におけるアンケートの分析結果を踏まえ、次の項目を課題として捉え、その改善に向け取り組んでまいります。

課題	対応案
経営戦略に基づいた組織、人事戦略について、さらに議論を深める。	広島県人的資本経営研究会における取組みの進捗を、担当部門である経営企画部より意見交換会にて、経営戦略と絡めて報告し、将来的な当社の取るべき方向性を議論する。
ESG、サステナビリティについて、さらに議論を深める。	2026年4月に制定した「サステナビリティ経営方針」に掲げた各マテリアリティーにおけるKPIの進捗を、担当部門である経営企画部サステナビリティ室より意見交換会にて報告し、議論を深める。

以上